

千羽パネルプロジェクトによせて

角山 桜井 薫

本会会員桜井薫さんから、標題の寄稿を頂きました。桜井さんは、太陽電池に関わって20年、国内での太陽電池の設置をしたり、海外の未電化地域での普及活動を行っています。小川では、NPO ふうどのメンバーでもあり、生ごみのメタン発酵事業にも関わっています。「エネルギーの地産地消」が、好きな言葉だという桜井さんです。

「千羽パネルプロジェクト」スタート

去る4月25日(土)、広島市の中央公民館で、太陽電池を手作りする千羽パネルプロジェクトと言う小さな催しが開かれました。集まったのは、地元の町内会、ボランティア、子供達、総勢は30名。(写真)付近は、水を求めて逃げて来た被爆者が折り重なって亡くなり、茶毘に付された所。製作された太陽電池は40Wが一枚、公園にある慰霊碑を照らす外灯となって、7月末には、お目見えます。「千羽づる」から「千羽パネル」へ……。



「千羽パネルプロジェクト」とは

広島には多くの犠牲者追悼施設や公園があります。千羽パネルプロジェクトは、これらの施設の電気を手作りの太陽電池に置き換えて行こうと言うものです。ポイントは、2つあります。一人一人がハンダを手にして手作りする事。資金も、一人一人の小さな思いを束ねて作り出そうと言う事です。「核や化石エネルギーではなく、自然エネルギーで暮らしを作れるよ」「エネルギーも地産地消で行こうよ」というメッセージが込められています。石油の利権を求めて、若者に銃を持たせてイラクに出兵したのは、この間ですね。ものがなくなれば、戦争が起きます。自分のところで持続的にまかなえる仕組みが出来れば、殺し、殺される地獄に堕ちずにすむのです。

エネルギーの地産地消

日本は資源のない国だと言われていますが、本当でしょうか？ わずか50年前まで、この国をまかになって来たのは、山の水と木々でした。薪のエネルギーの変換効率は、10~15%だったと言われていましたが、現在、コージェネレーションと言う電気と熱を同時に生み出す技術では、60~80%に跳ね上がります。自衛隊をイラクに出すのではなく、荒れた山や、我が国の油田を整備してもらえば良いのです。

小川町も

小川町には、ピッカリ千両のお天道様があります。豊富な山の資源があります。また、NPO の手で、生ごみ・有機物がガスとなり、電気と熱を作る実験が進められています。戦争の起こらない確かな一つの道は、これらの自然のエネルギーを自分達の手の中で、再生させ、花開かせる事だと思っています。

(「千羽パネルプロジェクト」にご賛同の方、資金カンパをお願いいたします。)

郵便振替 01340-7-87019 名称 千羽パネルプロジェクト

おがわ町九条の会 学習討論会

おしらせ

日時 6月20日(土) 午後1時30分

場所 小川町 図書館 会議室

内容 解釈改憲について考える
~恒久派兵法、海賊対処法を中心に

講師 渡辺礼一 氏

今後1月毎に「生活と憲法の視点から、現状を考える」観点から、「年金問題」「介護福祉」「医療と社会福祉」「貧困化と学校教育」等について学習討論会を連続して開催する予定です。詳しくは次号以後掲載します。どうぞお楽しみに。

今こそ **九条** が生きる時代です

憲法が生まれて 62 年

過去の戦争で、日本はアジア・太平洋地域で2000万人の命を奪いました。また、広島・長崎に原爆を落とされるなど、国内でも300万人を超える犠牲者を出しました。こんな悲惨な戦争は二度といやだ、絶対に戦争は起こさない。こんな誓いから生まれたのが憲法9条。今年には憲法が生まれて62年。世界は今、この日本国憲法9条の方向に大きく変わり始めています。

オバマ大統領の歴史的な演説

先日(4月5日)アメリカのオバマ大統領はプラハ(チェコの首都)で「核兵器を使用したことのある、唯一の核兵器保有国として、米国は行動する道義的責任がある」と演説をしました。これは米国歴代大統領としてはじめて原爆投下の責任を認めた、歴史的な演説です。同時にオバマ大統領は「核兵器のない世界を目指す」ことを明言しました。

日本は「核兵器廃絶」のイニシアティブを

「核兵器を使用した唯一の国」としての日本の反応はどうでしょう。政府は、極めて不十分・明確さを欠く反応しかしていません。「唯一の被爆国」として、また憲法九条を持つ平和国家として、日本は今こそ「核兵器廃絶」のイニシアティブをとるべきではないでしょうか。

憲法九条が生きる時代

21世紀、世界は、憲法九条が目指す、「核も戦争もない世界」を実現することが可能な時代になっているのです。本紙既報の通り「ソマリア沖海賊退治」と称して海外派兵の道を開いたり、グアム島の米軍基地に税金をつぎ込んだり、「憲法九条を変えて戦争のできる国にする」・・・日本政府のこの方向は世界の潮流から大きく外れていると言わざるを得ません。

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。(日本国憲法九条)

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。(第二項)

5月3日は憲法記念日

5月3日は憲法記念日。本紙既報の通り政府は改憲に向けて、しゃにむに突っ走ろうとしています。

総務省は、「改憲」のための国民投票法の「周知」を図るとして、色刷りパンフレット500万部を作成。

(写真右)小川町役場にも置かれました。

今後ポスターなども作成配布が予定されています。また、「国民投票名簿整備」予算を平成21年度予算に計上しています。

「改憲」のための準備に48億円もの国費が使われます。

5月3日のこの日、全国各地で記念行事が行われました。憲法を改めて見直そうという試みも例年になく盛んです。右は毎日新聞の記事です。

本会の試みも次に掲載します。あなたもご自分の言葉で憲法を「翻訳」してみませんか。



09年(平成21年)5月2日(土) 13版 経済・総合 6

「憲法前文をお国言葉に訳して」と呼び掛ける

「憲法って何？」。友達の一言に驚いた。05年、自民党の新憲法草案が報道された時のこと。「説明できん私もおねごとや。試しに前文を読んでみた。難しい。土佐弁で訳してみた。「平和に生きる権利があるや」と思うちよります」。楽しい。「全国からお国言葉で、翻訳を募った

毎日新聞

高知市生まれ。お国言葉の送り先は<http://plaza.rakuten.co.jp/tenamonya>

山本 明紀さん(40)

「面白そう」。インターネットで呼び掛けを始めた。太平洋戦争で戦死した祖父は、死亡通知が3回届いた。その都度祖母は悲しんだという。幼いころ何度も聞かされた。「平和」が心に根付いた。高校時代に米軍艦隊寄港反対の署名集めをしたが、運動の限界を感じた。

前文の「翻訳」を始め、草案の根の可能性を調べつけた。初めて読んだ人が「いやん」。憲法が身近なものになる。平和は自分の足元から始めればいいんだ」。現在、青森から鹿児島まで30府県から寄せられた。47都道府県制覇を目指す。「各地のお国言葉を読み直す度に、前文が好きになる」と大きな睡を輝かせる。

反響はネットだけにどまらぬ。差通函の行事として、大阪市中央区役所が8日まで、翻訳文を「階ロビー」に展示している。小学館から本を出版する計画も進め

2児の母。毎月9日には憲法9条にちなみ、平和を祈る断会を続ける。本誌は二農家。夫婦で7年前に脱サラした。剛業は平和の種まき。全国で確執と争い続けている。文・大澤里人 写真・服部隆

小川の言葉で「憲法九条」を(その4)

Cさんの素案 小川の言葉

まっとうな道理をもととした国と国との平和を心底から思うんで、国が権力を使った戦争をすることや、戦力をちらつかせて脅かしたり、戦力を使うこたあ、国と国との争い事を解決する方法としちゃあ、ずうーっとうっちやるよ。

こうしたことを実現するために、陸軍・海軍・空軍なんかの軍力はいっさい持たねえし、国の戦争をする権利も認めねえよ。

投稿先 FAX・Eメールまたは郵送で(発表を前提に・匿名発表可)

西田 一雄	みどりが丘 5-13-3	FAX 0493-72-4445	「会」代表の一人
笠原 武	飯田 423-1	0493-73-2536	元 中学国語教諭
永島善太郎	上横田 1088-1	0493-72-1457	元 小学校教諭